

各位

本格的な暑さがやってきました。
お見舞い申し上げます。

私は週末に
孫娘を幼児用のプールに入れるのを楽しみにしています。
皆様はどのように夏をお楽しみいただいていますか。

今月号は、一念発起して??女性テーマを研究してみました。
そのきっかけは、
デボラさんの「キレイならいいのか」
という挑戦的な問いかけでした。

「それではこの際」
ということで数冊の本を「研究」してみました。
でも苦労した割には、あまり新しい知見は得られませんでした。
ご勘弁ください。

自己評価では、「女性はなぜオシャベリか？」が
一番ためになるかもしれません。

あと、時事テーマ解説を一つと
先月号で私のブログとしては多くのご意見をいただいた
福島原発問題をとりあげました。

後者は、各種報告書が出そろったことでもあり、
あらためて、それらにも目を通して
私の事故原因に対する見解をまとめてみました。

どうぞ、ご関心を引かれるテーマからお読みください。

皆さまからのご意見や
「いいね」ボタンのクリックをお待ちしています。
よろしく願いいたします。

★—————No. 46 2012年8月—————★

以下は作成順です。ブログでは逆の順序です。

- 上野則男のブログ ランキングはどうなってる？
ここ2年間のアクセス数のデータを拾ってみました。
上位は、まじめなテーマが並んでいます。
皆様は際物はあまりお好きではないようです。

http://uenorio.blogspot.jp/2012/07/blog-post_02.html

- 女性はなぜオシャベリか？
当然と思っておられるかもしれませんが、
きちんと「科学的根拠？」があるのです。

http://uenorio.blogspot.jp/2012/07/blog-post_3869.html

- 「キレイならいいのか」
「キレイな女性は有利だ、差別だ」というご意見ではなく
「女性はキレイであることにエネルギーを使わせられるのは、
ハンディだ」ということから始まって——

http://uenorio.blogspot.jp/2012/07/blog-post_28.html

- 今なぜ「女子の時代」なのか？
女子会ってご存じですか？70代のオバハンたちも女子会で
氣勢を上げているのですよ。
男子ももっと頑張らなくては！

http://uenorio.blogspot.jp/2012/07/blog-post_29.html

- 「賢い女性が2人いると会社は伸びる」？

「何だろう？」ですが、結構まじめな本でした。
因みに、わが社にも賢い女性が2人いますが？

http://uenorio.blogspot.jp/2012/07/blog-post_6814.html

- オスプレイ導入に反対するのはなぜ？
情報公開の不十分さが原因ですね。
対策も考えきちんと説明して、導入すべきですね。

http://uenorio.blogspot.jp/2012/07/blog-post_6709.html

- 「美人の歴史」 太めが美人だったことはないのか？
原本はあまり面白くなかったのに、そういうテーマで
研究してみました。結論は？

http://uenorio.blogspot.jp/2012/07/blog-post_30.html

- 福島原発事故の原因—上野見解最終集約
大前研一さんも当時から
私と同じことを言っておられたようです。
どこが同じ？？

http://uenorio.blogspot.jp/2012/07/blog-post_31.html

当メルマガは、
以下の方法でお送りいたしております。
このメール本文では、「上野則男のメルマガ」のテーマ名だけをお知らせします。
内容は、以下のいずれかの方法でご覧いただくことができます。

1. 月刊の「上野則男のメルマガ」
このURLで、バックナンバーを含めてご覧いただけます。
<http://www.newspoint.co.jp/data/mailmaga/mgbk.html>

ブログにアクセスできない方は、こちらをご覧ください。

2. 随時更新される「上野則男のブログ」
総括の入り口のURLは以下のとおりです。
<http://uenorio.blogspot.com/>

個別のテーマのURLは、下のテーマ一覧のところに表示しています。

3. 携帯で「上野則男のブログ」をご覧いただくこともできます。
携帯用のQRコードが、上記の「上野則男のメルマガ」の冒頭部、
または「上野則男のブログ」の冒頭部右に示されています。
ご利用ください。

ご意見等につきましては、ブログへの書き込み（なるべくこれをお願いします）
か、当メールへの返信でお願いいたします。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- このブログの人気状態を知っていただく。
- このブログのテーマに関心を持っていただく。

ねらい：

- 今後、もっとこのブログを読んでいただく。

上野則男のブログは、2008年10月に第1号を出してから最新は281号となりました。そこで、Googleに記録のある2010年4月以降の分について、400アクセス以上のテーマのランキングを取ってみました。

なお、この表は、列が揃って見にくいのですが、私の技術ではどうにもできません。お許しください。

1. 福島原発の状況、これが本当！	2011.3	1,937
2. 「低放射線量は有益である」という証明	2011.5	1,417
3. 共通番号制度に誰が反対するのか	2010.12	794
4. 事業仕分けでIPAのIT人材育成事業が玉に！	2010.11	648
5. 「システム障害はなぜ2度起きたか」	2011.9	646
6. 福島原発事故から学ぶこと	2011.3	619
7. 低放射線量の有効性について再論	2011.6	539
8. 偽装ラブホってご存じ？	2010.6	487
9. 鳩山由紀夫の罪 万死に値する！	2012.2	477
10. ようやく福島原発事故の真因に迫ってきた！	2011.4	469
11. 「日本人の9割に英語は知らない」??	2011.10	465
12. フェイスブックを知ってる？	2011.1	454
13. 福島原発の事故およびその被害拡大要因	2011.5	448
14. 菅総理！即刻退陣を！！	2011.7	426

これを見ると、福島原発関係は時宜に合ったテーマですから、上位は当然でしょうか。6点入っています。

1位、2位はダントツですね。

そのうち2点は、「低線量放射線は有益である」という説（私はこれが正しいと思っています）の紹介です。

4番、5番はシステム関係のテーマです。

システム関係はあまり多くないです。私がシステム関係をあまり取りあげていないのですが、取り上げれば、読んでいただけるということでしょう。

なお、本格的な「システムもの」である「ソフトウェア保守の10年後??」は326件でした。

それ以外については、それなりに時事テーマなのですが、

疑問形というか質問形になっているのが特色です。

このランクの下の上位にはその類がたくさん入っています。問いかけられると、何だろうと読んでしまうのでしょうね。特に、8番は重要テーマでないのに上位に入っていますね。今後、この形を多用しましょう!??

早速、今回もそのようにしています。

今後とも、このブログをご愛顧くださいませ!!

283 女性はなぜオシャベリか

No.47 2012年8月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 女性がオシャベリであることの原因を知っていただく。
- これに関連した知識を得ていただく。

ねらい：

- 女性のオシャベリを認め、特定の女性をとがめたりしない。

「キレイならいいのか」に関連して女性のテーマです。

私の最近の女性に対する関心事は、「女性はなぜおしゃべりなのか」でした。

毎朝のジョギングの目的地近くの「西大井広場」でラジオ体操をしています。

その行き帰りの様子を見ていますと、女性達は何人かで群れをなしておしゃべりをしています。その中に男性が混じっていることもあります。男性だけの群れではめったにおしゃべりをしていません。

女性がおしゃべり好きなのは、「井戸端会議」の例を引くまでもなく周知の事実なのですが、あらためて、「なぜなのだろう?」と気になりました。

そこで、このテーマを研究してみました。

なお、もう一つの関心事は「女性の脚はなぜ魅力的なのか」でしたが、これはあまり考えなくてもすぐ答えが出ました。

「女性がオシャベリの原因」

以下を見てみますと、女性がオシャベリであるということは科学的根拠があることのようにです。

【脳科学の所見】

女性の脳は、脳梁（左脳と右脳の橋渡し部分）が太く、左右の脳の連携性が強い。その結果は、情報処理スピードが圧倒的に大きい右脳優位となる。

直観的判断力が優れていることになる。「ピンとくる」のは女性。男性が言葉で四の五の言っても、裏を読まれて尻尾を掴まれてしまう。

(上野見解)

右脳で捉えるイメージに触発されてしゃべるネタがどんどん左脳から出てくる。

【DNA的所見】

「動物行動学から見た、ヒトの脳の”くせ”について」
(学術会報2012-IV 小林朋道教授)からのご紹介です。

人類が直立して森林から草原(サバンナ)に進出した数百年前、男性は狩猟に出かけ、女性は残って居住地の周辺で植物の採集や幼児の世話をを行った。

(上野解釈)

家に残った家族は、言葉でコミュニケーションを取っていた。男性はおしゃべりしていたら獲物に感づかれて逃げられてしまう。無口にならざるを得ない。

小林氏の紹介している男女の役割分担の差から来ているであろう性差(この点は立証されている)は以下のとおりです。

女性が男性より得意な課題

- 図形や物の配置に関する認知や記憶
- 言語の流暢さや単語の思い出
- 四則計算
- 手先作業の速さや的確さ
- 表情や心理の読み取り

男性が女性より得意な課題

- 長距離のルートの把握や検出
- 物体の回転や移動などの空間的把握
- 標的に物を当てる能力

【性差医療学の知見】

この情報源は「性差医療」(天野恵子医学博士)(学術会報2010-VI)です。

性の差による健康・病気の関係性を研究する学問である性差医療学は、1990年代に始まった新しい領域のようです。

男性の死因が大きい病気

肝硬変、心筋症、癌、結核、(自殺)
このすべてが女性の2倍以上の死者です。
このため、男性の平均寿命が短いのです。

女性の死因が大きい病気

胆のう癌、乳癌、老衰

女性が肝硬変が少ないのはエストロゲン(女性ホルモン)が肝臓を守っているから、ということ以外の理由は明確には分かっていません。

(上野類推)

女性ホルモンがそれだけ大きな働きをしているということなら、女性ホルモンが言語中枢の働きを促進するということは、研究されていないようですが、ありそうなことではないでしょうか。

【このテーマの目的・ねらい】

目的:

- 女性は「美しくなる」ことで苦勞していることを知っていただく。
- 美しいことで差別をするな、という主張を知っていただく。
- 「その主張に無理がある」ことを知っていただく。

ねらい:

- (このテーマは、あまり役に立ちそうにありませんね)

デボラL・ロードさんという米国のフェミニズム法律学の大家が書いた「キレイならいいのか」をそのタイトルにつられて読んでみました。

原題はBeauty Bias 美の偏見。

日本の出版業は書名の付け方がうまいですね。

この際、私の「得意」分野一女性問題を研究しようと、「美人の歴史」(G・ヴィガレロ)、「女子の時代!」(馬場伸彦他編著)も研究してみました。

そのご報告は別テーマでいたします。

「キレイならいいのか」の主張はこういうことでした。

デボラさんは、「アメリカ法曹協会女性法律家委員会委員長、スタンフォード大学女性とジェンダー研修所所長を務めておられます。

次第に「エラク」なってくると、周りから服装のことに注文が付きだしました。組織でお金を出すから「ヨイ服装」をしてくれ、とまで言われます。

そこで「何でそこまで言われなければならないのか。

男性はそういうことはないではないか。

女性は美しくなければならぬ、というのは筋違いではないか」ということが、デボラさんのこのテーマの研究の入り口だったのです。

以下にデボラさんの主張を列挙します。

女性はキレイだと得をする。

女性はキレイであることを要求される。(男性は容姿が要求されることは特別な職業を除いて、ない)

女性は性的魅力が売り物になる。

ヒラリークリントンの胸の谷間が少し見えたことがマスメディアで話題になった。

テニス、ゴルフ、フィギュアスケートでは成績よりも性的魅力がマスコミの取りあげに繋がる。アンナ・クロニコワは一度もシングルスで優勝したことがないのに人気がある。

女性に対して容姿(化粧や服装)に関する要求をする不当な男女差別はやめるべきだ。

ヒラリークリントンはアメリカのマスコミの餌食となり、「デブ、デカ尻、短足」と言われた。(上野注:米国の

マスコミは結構やりますね)

米国の少数の州では雇用や解雇に際してその職業の必然的要求条件でない場合に身体的特徴に対する差別をしてはいけないという法律がある。

必然的要求条件の例：

演劇、モデル

スーパーマーケット店員が頭を短く刈る。

「衣服はきつすぎず身体に合ったものを着用すること」
(ウォルマート)

その必然性は裁判官が判断するが、絶対的な基準があるわけではないので、裁判官による個人差がある。

なおかつ訴えても労多くして功少なして訴える人が少ない、また、どういう理由で不採用または解雇したかを立証するのも困難である。(別の理由を持ち出せば覆すことが難しいのです。この点にデボラさんはご不満のようです)

以下、上野意見です。

当書の前半では、容姿はもっぱら美貌・性的魅力・服装のことを指していたのに後半で容姿に基づく差別を禁止する法律を紹介する時には、容姿＝身長・体重に限定していて竜頭蛇尾の感を持ちました。

女性権利保護者の著者が、初めに拳を振り上げたほどには事を進めることは難しい、ということでしょう。

たしかに、不当に職業上で差別をすることはまずいことで、それは、「キレイならいいのか」という議論とは別物でしょう。

しかし、男性が女性に何を望むのかは、本質的なことであって、それをやめると言うのは無理があります。

そんなことを言い出したら、男女という区別そのものが無くならなければならないようになります。

雌雄のある動物はどちらかが相手を探します。哺乳動物のほとんどは、雄が雌を追い求めます。雄に選ばれるためには雌は美しくなければならないのです。

雄が乳房と臀部の立派な雌を選ぶのは、強い子供を生んで育ててもらうためです。

人間の差別を禁ずる米国で女性の美を競う美人コンテストが発祥したのは皮肉なことです。近代のミスコンの元祖「ミスアメリカコンテスト」は 1921 年に始まっています。

FaceBook の原点も一種の美人コンテストです。米国は、「差別の禁止」と「人間の本心の発現」の折り合いをうまく付けています。

このテーマは目的論で言うところになります。

女性は自らが美しくありたいと思うから、毎日の化粧・衣装の努力、ダイエット・痩身術の努力をします。

化粧・衣装・ダイエット・痩身術は美しくなるための解

決策です。

「美しくなる」のは、人に言われてやっているのではありません。自らが選択している価値目標です。

嫌ならしなければいいのですからね。人がとやかく言う筋合いはないのではないのでしょうか。「美しくしようとしまいと私の勝手でしょう！」だと思います。

デボラさんの場合の「美しくするように人から言われる」のは例外的なのです。デボラさんだって、断固自己流(の服装・化粧)を通せばよかったです。

7月30日追記

男女差別撤廃運動の傍らで、世界では、男女差別の実態は厳しく進んでいます。

2012年7月29日の日経新聞書評欄で紹介された「女性のいない世界」(マール・ヴィステンダール著)では、以下の内容が書かれているようです。

たいへんなことですね。

「人間の自然な出生数は、女子 100 人に対して男子 105 人だが、このバランスがアジアと東欧の一部で崩れ始めた。超音波による妊娠中の胎児の性別判定と頻繁な中絶手術によって。

こうした発展途上国で出産前に除かれる性は、もっぱら女兒だ。教育、就職、相続など様々な面で男性が女性より有利な場合が多く、一般に男児が望まれるからだ。

一人っ子政策を実施している中国と親が花嫁に多額の持参金を用意する風習の残るインドでは明確に男性が多すぎる地方もある。

台湾では、男女比の不均衡で適齢期の男性が嫁不足になり、ベトナムから助成を輸入するケースが後を絶たない。」

285	今なぜ「女子の時代」なのか
No.47	2012年8月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 今はやりの「女子」とは何かについて知っていただく。
- その時代背景について考えていただく。

ねらい：

- 男子は「女子力」を見直しましょう。
- 男子は女子に負けないように頑張ってください。

馬場伸彦・池田太臣編著の「「女子」の時代」を読みました。

その「はじめに」に「いまなぜ女子の時代なのか？」とタイトルが付いていて以下のことが書かれていました。

バブル経済の崩壊以降、あるいはリーマンショック以降の経済活動の停滞は社会に行き場のない閉塞感をもたら

してことはいまさら言うまでもない。
段階的に積み上げてきた上昇志向の価値観がそのた日に無効とされ、円錐形に構築された社会システムの共同幻想が混沌の中に投げ出されたのである。

成長神話と共に合った「大きな物語」は有効期限を失効し、「ナンバーワンよりオンリーワンになればいい」と行った独我論的価値観へと一時的に避難せざるをえなかった。

だが、そうした閉塞した状況下においてさえ、活力を失わなかったのが「女子」であり、「女子的なるもの」であったのだ。

おおむねそういうことでしょう。
もっとはっきり言えば、こういうことになりそうです。

仕事の間が自己の存在価値である男性は、仕事場の価値下落で、事故の存在感・達成感を喪失しています。自信喪失状態です。これに対して多くの女性は、仕事を第1義としていません。

その結果、女性はそんなに自信喪失状態にならずにすんでいます。

ですから、相対的に女性の方が元気になっているということではないのでしょうか。

そこに、好都合な言葉が生まれて女性たちの活動を後押ししているのです。

その最たるものが、「女子会」です。従来は、「オバハンたちのうるさいおしゃべり会」だったものが、「女子会」という名前になって市民権を得てしまったのです。

本書の中にも、「女子会と70代もいいたした」という句が紹介されていました。

女子会以外に、紹介されていたのは、
女子力（女性としての力）、カメラ女子、
大人女子（十分大人になった女子）、

オタク女子、卒業のない女子高（ファッション誌の世界）、
女子写真（女子が撮る写真）、
女子マンガ（少女マンガではなく大人女子が読む漫画）
などです。

本書の内容から、女子に関連した言葉の定義（説明）をご紹介します。

女子：

本来は性別を表す基本用語。
女子トイレ、女子高校、女子大学、女子社員
オリンピック競技の女子種目

しかし、「男子厨房に入るべからず」「女子と小人は養い難し」など、男尊女卑的ニュアンスも含んでいた。

女性：

これが目新しいことでしょうね。
明治時代までは「によしょう」と読み、「女デアルコト、ランナ」と辞書にあり、ジョセイと読む場合は女の性質を表していたそうです。

「女性」の方が、「女子」より新しい言葉だということになります。

婦人：

明治から昭和後半まで、公的な女性の呼称は「婦人」だった。成人した女性、既婚女性の意味もあり、女子よりも社会的存在としてのイメージが強い。婦人参政権、愛国婦人会

女：

1 番基本的な用語である「女」については紹介がありません。私が調べました。三省堂新明快国語辞典
1) 人間の内、雌としての性器官・性機能を持つ方
2) 1人前に成熟した女性、いい女＝器量のいい女性
3) 正式の妻以外の愛人、情婦、めかけなど、

男性から女性を見た見方ですね。

女の子：

女性の子供、若い女性を指す。
女子社員全般を指す場合もある。（これは女子社員に対して失礼な表現です）

なお、「女子」の言葉を流行らせたのは、人気マンガ家の安野モヨコさんなのだそうです。

安野モヨコさんは、単行本化された美人画報ハイパー（2001年）の「あとがき」で男性誌のパーティに参加した際に「誰も相手にしてくれない」事態に直面した時のことを以下のように書いているのだそうです。

ここでは、マンガ描けても何の武器にもなりやしないんだ。

あきらかにキャバ嬢のほうが私より上！！

なぜならカワイイから！！

もちろん、日常に戻ればそこだけが基準になるわけじゃありません。

でも、その時そういう世界があること、そこでは今までやっていた仕事より、女子力のほうが重要であることに気づいたのが、その後の美容道へのスタートになったことは間違いありません。女子は仕事できてもキレイじゃなければ駄目なんです！！

その後、安野さんは、美容道に精進して、見る見るうちに美貌の「女子力」の持ち主に変貌したのだそうです。

このことは、別テーマ「キレイならいいのか」のデボラさんの問題提起に繋がります。

しかし、キレイを差別するなどいってもムリなのではないでしょうか。

少なくとも個人・私生活の世界では。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 女性の特性についてもう少し考えていただく。
- 会社での女性の配置のあり方について考えていただく。

ねらい：

- 女性の理解を前進させて行動していただく。
- 女性から理解される男性になっていただく。

これは、中神公子さんという人気「企業コンサルタント」(写真では美人)の方が書かれた本の名前です。

実は、我が社にも賢い女性が二人います。

女性の特性を書いておられますので、別テーマ「女性はなぜおしゃべりか」の補足にもなります。

女性の特性を以下のように定義されています。

- 1) 形のないものを評価する。
- 2) イメージで左右されやすい。
- 3) ストーリーをつくりたがる。
- 4) 生きているものに惹かれる。
- 5) 自分が気に入れば周りを説得する。

男性はこれに対して

- 1) 理由があるものを評価する。
- 2) 機能・素材といった「もの」に関心がある。
- 3) 現実的に捉える。
- 4) 細かいこと気づかない、好きではない。
- 5) 自分が気に入っても周りを説得しない。

男性は自己中心、女性は周り・人間関係重視、ということのようです。

この根拠を、3歳児の描く絵の内容から説明しています。これは若干誇張もありそうですが面白いです。

女の子の描く絵の傾向

- 1) 家……………白馬の王子様、守ってくれる人
- 2) ペット……………愛を注ぐ対象
- 3) 花……………環境
- 4) 蝶……………友人
- 5) 女の子……………将来の自分

ということで自分を中心に周りや将来のことを描いている、

これに対して男の子は

自分が好きなモノを描くだけ、なのだそうです。とにかく、男と女は違うということですね。

この中神説から見ても、「女性がおしゃべりが好き」ということに対する反対材料は出てこないようです。

なぜ(賢い女が)「二人いる」のかについてはこう説明しています。

女性は共感を求めながらことを進める性質が非常に強いのです。そのため、共感する、共有する人が自分以外にもう一人いないと孤立してしまうのです。

それに加えて賢い女性が1人だと、どうしても一人の賢い女性に仕事が集まってしまうため、疲れ果てて自滅していくのです。

では、「賢い女性」とは何かについてはこう述べています。

1. 素直です

「ハイ」といって行動に移すことができます。

2. 人の批判をしません

自分の立場・役割を理解して行動できます。

3. 前向きに考えます

プラス思考で日々努力します。

これだとたしかに賢いですね。一般の女性はこれが苦手なようですが、男性でも同じでしょう。

会社では、女性を1人にして使うのはうまくいかないということです。皆様のところではどうなっていますか？

本書では、女性を賢くする、あるいは自分が賢くなる方法を解説しています。関心ある方はお読みください。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- オスプレイ問題を概括する。

ねらい：

- これはほんの序論です。
- さらに掘り下げた研究・検討をなさってください。

私自身もこのテーマにあまり関心を持っていませんでした。新聞報道から「ずい分事故が多いのだな」という印象を持っている程度でした。(その報道は偏った判断を与えていましたね)

ところが、7月29日のフジテレビ「新報道2001」を見て問題が理解できました。

1. オスプレイ導入の必要性

1) アメリカ海兵隊の新機種への更新

オスプレイはアメリカ海兵隊が使用するのですが、海兵隊の基本使命は、陸軍・空軍の出番を補うことです。陸軍は、陸続きで攻めるか、輸送艦で運んでもらわないと活動できません。空軍は、上陸ができません。

海兵隊は海から陸を攻める役割で、真っ先に敵地に乗り込むのです。

島嶼部の紛争ににらみを利かせるのも海兵隊です。

その海兵隊の生命線とも言うべき輸送手段がこれまでのCK46シリーズは50年以上も前の開発で技術的に旧式すぎる状態となり今回更新することになったのです。

従来使用機46シリーズに対して

航続距離 初期モデルの数倍、最新機の2倍

速度 へり最速機の5割増し
収容乗員 24名前後で不変
となっています。

「速く、遠くまで」兵隊・物資を届けるのです。

2) 日本配備の必要性

オスプレイになると、沖縄基地から台湾、韓国の南端を囲む海域への出動が可能となります。当然、尖閣諸島へも睨みがききます。

中国の海洋進出に対する抑止力になることは間違いありません。現に中国は、オスプレイ配備に対して不満を述べています。

日本の国は日本が守るべきことは基本ですが、日米同盟による抑止力には期待したいところです。

2. オスプレイの危険性

オスプレイはヘリコプターのように垂直離着陸ができてなおかつ速く飛ぶために主翼が回転するようになっています。

この技術が難しいために1990年の試作段階から事故が起きました。

2012年に入ってから2件の事故は、記憶に新しいところですが、この事故は飛行事故として7回目、8回目の事故です。

7回目の事故では2人が死亡2人が重傷、8回目の事故では5人が負傷しています。

この両事故とも機器の故障ではなく、操縦の問題だと言われています。水平飛行から垂直飛行に移る際に12秒間かかり、この間の操縦を間違えると墜落等になるようです。

オスプレイの事故率について発表されている資料は、海兵隊の他の機種飛行10万時間当たりの重大事故率(人身事故)2.45に対してオスプレイは1.93で低い、というものです。

しかしながら、重大事故以外を調べると決して低くないという調査結果も公表されています。

そうすると、実際に起きている事故前にして、公表されている数値は信用できない、という判断がでてくるのは自然の成り行きかと思われまます。

3. ことの本質

必要性和危険性のバランスをどう考えるか、という問題になります。

どちらか一方だけの論理を通すことはできないでしょう。「原発反対」と同じテーマだということになります。

ことを複雑にしている原因の一つは情報公開が不足していることです。

前掲の重大事故だけでなく、すべての事故の状況を発表し、事故原因が何で、その原因に対してこういう対策を

とっている(ほぼ)安全である、という説明をすべきでしょう。

100%安全と言うと、だれも信用しません。

このような重大テーマです。事故原因分析をしていないということは考えられません。早急にすべてを公開すべきです。

その事故原因に対して、配備先ではこういう対策をとるので安心してほしい、と言わなければ、反対は収まりませんね。

288	「美人の歴史」太めが美人だったことはないのか？
No.47	2012年8月

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- ヨーロッパ中心社会での美人の歴史の片りんを知っていただく。
- 美人とは何かをもう一度考えていただく。
- なぜ、女性は瘦身願望なのかを考えていただく。

ねらい：

- 美人とは何か、自分が気に入る女性はどうな人か、を考えていただく。
- 「瘦身」に対する「偏見」をなくしていただきたい。

ジョルジュ・ヴィガレロ(フランスの国立社会科学高等研究院教授)の書かれた「美人の歴史」という本を「ということが書いてあるのだろう」と思って読んでみました。

430ページ以上の大著で社会科学的アプローチではなく人文科学的アプローチ(細かい事実を並べ立てる)で辟易としました。

残念ながら、「ということが書いてありました、こういう主張でした」と的確に言うことはできません。

著者は「序」で本書執筆の意図をこのように述べていました。

「本書でたどりたいたいの、

むしろ(美の感性に対する)社会的な歴史である。

その歴史では、毎日のしぐさや言葉のなかに直接的に体験された身体の美しさの基準、魅力や嗜好の基準が表現される。

その歴史では、図像もさることながら、多くの言葉(美をどう表現しているか)が調査される。

というのも、意識されたこと、特に興味をそそられたこと、認識されたこと、感じられたことをあらわすのは言葉なのだから。」

そのアプローチは正当だと思いますが、本書では、おそらく数百種類の著書・文献等からその「言葉」を探し出してきているのです。それが辟易なのです。

本書は、章建てが世紀別になっています。

そこで身体の部位別に時代の美の基準がどう変わったのかを拾い読みで表にしてみました。

中世以降の美人の特徴（未完成）

時代	目	顔	首	胸	胸	下半身	脚	全身	備考
中世	澄んだ眼差し			引き締まった。盛り上がった	細く引き締まった			白さ	化粧に否定的
16世紀	「目の威力」	重視 モナリザの微笑み		重視 ふくらみ	引き締まり	上半身重視 下半身は土台で傘の中。		肉付きのよい。 血色のよい	「優美さ」重視 日焼けは×化粧の容認。貴婦人は仮面の直用 「肉付きのよい」は痩せと肥満の間。
17世紀	魂の発露としての目の重視	美しい顔重視						外見・物腰重視	「生き生きとした美しさ」 化粧品の多様化。
18世紀				母性重視（ひし形嗜好）				引き締まった白い体	キリスト教主義の考えから人間重視の考えに転換。 コルセットなど否定→自由、健康美 歩き方など動作の軽やかさ
19世紀	重視	エロチックな表情	美しい首	美しい胸	ウェスト細く	身体にぴったりドレスによって下半身の美の発見。 腰のくびれから臀部に至るカーブ重視。 1870年代半ばヒップの出現。 ヒップは分厚くならないように留意。 「ヒップを細く」	美しい脚。 「脚を長く」		「静的な美しさから動的な美しさへ」 身体の輪郭（ライン）が徐々に露わになる。スードの一般化 「がっしりした肩幅、張り出した胸、ぎゅっと絞れた腹」 「上半身は力強くまっすぐ」
1914 ～2000		ショートカットの髪型、化粧の推奨、個性		バスト・ウェスト・ヒップのコントラスト	まっ平らな腹	モンローウォークが魅力的なヒップに関心を向けさせた。	際限なく伸びる脚	有能さ、優美さ、機動性の証としての流線形のフォルム、つる草のような体、すらりと伸びた縦型のシルエット、美しい日焼け	美女は意志の賜物、美容術・化粧の奨励、官能的なものが重きをなす。 自然・野生。 女優・モデル主導（欄外注） 「瘦身は機動性とエロス化に作用する二重の記録簿だ。より感じやすいからだ、より活動的だからだ」

ジーナロブリジャーダ、ソフィアアロレン、マリリンモンロー、ブリジットバルドー（BB）、マレーネディートリッヒ、エヴァガードナー、ジェーンラッセル、ジェーンフォンダ

その世紀の中が一色であるとは限りませんので相反することが記載されていることもあります。

私の事前の関心は、「太めが美人であった時代はあったのだろうか、特に立派なヒップが」ということでした。

現代でも、未開の島嶼国で、これが美人の基準であることをテレビで見た記憶があります。

女性は、元気な子供を産み育てることが基本使命であるなら、そうあってしかるべきだと思います。

なぜ、世の多くの女性が瘦身願望なのか、不思議でなりません。世の多くの男性が痩せた女性を好むのでしょうか、必ずしもそうとは思えません。

テレビなどで痩せた女性が多く主役で登場するので感性が侵されてしまっているのではないかと、思っています。

それとも、現代の「草食系男子」はか弱くて「強い」女性は苦手なのでしょうか。パートナーを「実利」を期待するのではなく、「装飾品」扱いしているのですかね。

この書を見ると少なくともヨーロッパ中心の中世以降では太めは無理としても「ふくよか」のレベルでも美人として登場していません。

想定されるのは、「すっきり、ほっそりしている」ということは希少価値であるために高い評価をされたということなのではないでしょうか。

本書によると、「瘦身が美」という前提の中で、「美人の歴史」は顔・上半身中心から、下半身・全身に関心が移り現代は美人の基準が多様化した、ということが要約のようです。

そういう美人が絵に描かれたり、文章に登場したということであって、（ジョルジュさんの分析対象もそのような素材が対象です）一般大衆の心の中を分析したものではないのです。

その点からすると本書は、「残された書画からみる西欧の美人の歴史」とすべきものであろうかと思えます。

一般大衆の嗜好からすると、ここで述べられている価値観は偏っているのではないかと、思えます。

また、「日本の美人の歴史」だとどうなるのでしょうか。おそらく浮世絵等の登場人物が対象になり、以下の特徴があることになるのではないのでしょうか。

西欧の美人よりは大衆的。
和服なので顔と物腰が中心で、身体の姿形は表に現れない。

モナリザに対抗するのは、黒田清輝の「湖畔」の美女でしょう。

ここで美女と書いて、美人と美女の違いは何だろうか？と考えました。上野の私見です。

美人：姿形が美しい。静的。年齢不問
美女：姿形が魅力的。動的。年齢制限あり

モナリザは美人で、湖畔は美女なのです。湖畔の女性には、ウチワの動きが感じられますものね。

（このテーマの結論）

私の希望としては、女性は、健康を害する瘦身はやめて健康な美を実現してほしいと思っています。

【このテーマの目的・ねらい】

目的：

- 福島原発事故の真の原因を知っていただく。
- この事故は防止策を取りうるものであったことを知っていただく。（それは堤防を高くすることではなく、予備電源系の防水性を高めることです）
- 原因分析例を知っていただく。

ねらい：

- 感情論での原子力発電反対を再考していただく。

福島原発事故が甚大な被害をもたらしたのは、放射性物質の拡散です。それは原子炉建屋の水素爆発によってもたらされたものです。

なぜ水素爆発が起きたのか、それは原子炉の冷温停止ができなかったからです。ここまでは、どなたも知っていることです。

ということは、福島原発事故の被害は、地震で建屋や原子炉が損壊したからではなく、原子炉の冷温停止ができなかったから発生したということです。

冷温停止できれば、なんの問題も起きなかったのです。

福島第1原発に隣接している（12キロ南）第2原発は冷温停止ができて何の問題も起こしていないことから、このことは明らかです。

では、なぜ福島第1では冷温停止ができなかったかを第2原発との比較で整理してみましょう。

福島原発事故の原因 福島第1原発（第2原発の比較から）

比較項目	第1原発	第2原発
立地	福島県双葉郡大熊町・双葉町	福島県双葉郡楢葉町 第1原発の南方12km
原子炉の海拔	10m～13m	12m
稼働時期	1971年～79年	1982年～87年
原子炉形式	沸騰水型軽水炉	沸騰水型軽水炉
主契約メーカー	GE、東芝、日立	東芝、日立
予備電源の種類	ディーゼル発電機12台 水冷式9台、空冷式3台 これ以外に予備電源以外の発電機が1台ある。	ディーゼル発電機12台 すべて水冷式
予備電源の設置場所	9台：タービン建屋地下1階 空冷式3台：他の建屋1階 空冷式3台は1994年に追加設置されたものだが、今回も浸水を免れた。	原子炉建屋内 （2011年4月6日朝日新聞報道の東電柏崎刈羽原発の分析として紹介されている）
緊急停止（核反応停止）	3月11日14時46分	同左
正常電源の停止	地震直後にすべて停止	4回線中1回線生き残り
津波の高さ	11.5～15.5メートル	6.5～7.0メートル 遮り波12～14.5メートル
予備電源（含む電源盤）の冠水	8台	3台
予備電源用海水ポンプの冠水	9台	6台
予備電源の機能停止	8台が電源盤含む水没で使用不能。4台が海水ポンプの水没で使用不能。 6号機の空冷式1台のみ生き残り	3台が電源盤の水没で使用不能、6台が海水ポンプの水没で使用不能。 3台生き残り。これが第2原発の事故回避に貢献した。
冷温停止	12月16日に政府は「冷温停止を達成」と発表	3月15日すべての原子炉が冷温停止
水素爆発	3/12 1号機 3/14 3号機	

この比較表の基になっている資料は、以下のとおりです。

「福島第1」事故検証プロジェクト最終報告書 大前研一著
当書の帯の主張

「国会事故調も政府事故調も問題の本質を見誤っている！
電源一つと冷却源さえあれば福島第1原発はメルトダウンしなかった」
このことは私の1年前からの主張と同じです。

福島原発事故 独立検証委員会
調査・検証報告書 日本再建イニシアティブ編

2011年4月6日朝日新聞記事
「東電、設計の不備指摘 原発事故分析 福島第2と比較」

冷温停止できなかったのは、原子炉を冷却できなかったからです。

冷却には電源が必要です。
福島第1原発の正常電源は地震ですべて失われました。

緊急用の主たる予備電源は、ディーゼル発電機です。
ところが、このディーゼル発電機が稼働しませんでした。

その理由は、発電機自体の冠水と発電機を冷却するための海水を供給するための海水ポンプの冠水、により発電機が使用不能になったことです。

発電機自体の冠水は、水密が十分でないタービン建屋に設置したことにより起きています。当時の地震学では、津波は5メートルまでだとなっていましたので、タービン建屋でも問題ないと考えたのでしょうか。

第2原発の発電機は、水密が完全な原子炉建屋に設置されていたため発電機自体の水没は免れています。

海水ポンプが必要なのは発電機が水冷式だからです。
この海水ポンプは海の近くに設置されていて、途中一度津波の高さ予測から底上げはしたようですが、津波をまともに被ってしまいました。

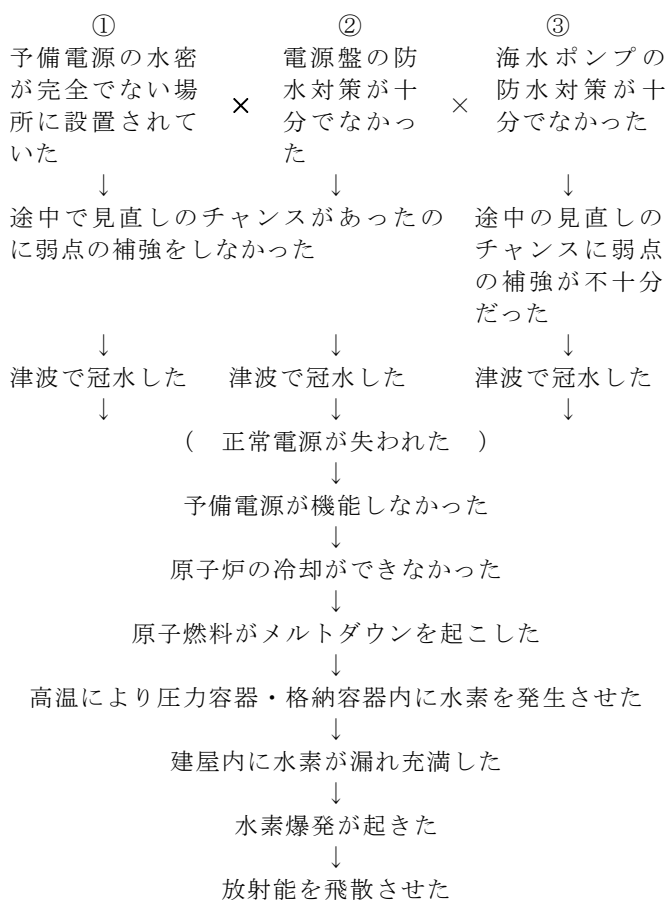
福島第1原発で、空冷式が3台あるのは、1994年時点で予備電源の見直しがされたときに、「2、4、6号機に予備電源が1台ずつしかないのはまづいのではないか」ということで増設されたものです。

その際に、誰かが水冷式のリスクを挙げて空冷式にしたもののおかげです。

よく確認してみると長い間にいろいろ補強策はとっているようです。

福島第2では、当初から予備電源は水冷式が3台ずつありましたがそのままになっています。

以上をまとめますと、以下のような因果関係が成り立ちます。



予備電源が機能しなかった後のプロセスでも、水素爆発を起こさない手立てはあったかもしれませんがそもそもは、予備電源の使用不能が悪いのです。

①②③につきましても、水冷式の場合、どれ一つが欠けても予備電源は機能しません。空冷式の場合は、③は無関係です。

- そこで、今回の事故の最終原因は、
- ①発電機を防水が完全でない場所に設置したこと
 - ②電源盤の防水対策が十分でなかったこと
 - ③海水ポンプの防水対策が十分でなかったこと
- あるいは水冷式の発電機を採用したこと

その一つずつが独立で事故原因に対して責任があるのです。

福島第2では、この①②③の難を逃れて3台の予備電源が稼働しました。あつぱれです。私が、特に問題だと主張するのは、発電機の設置場所です。

福島第2原発では、防水性の完全な原子炉建屋内に設置したのですから冠水のリスクを認識していたということだと思います。

それなのに、福島第1に遡及して対応策を講じなかったことは全体責任者の怠慢だ、と私は断じているのです。

この点が、①②について「途中で見直しのチャンスがあったのに弱点の補強をしなかった」としていることです。

③については、2002年に土木学会の見解を受けて、津波の高さの予測を変更して、海水ポンプの2メートルほどのかさ上げをしています。かさ上げだけでなく、防水性の強化もすべきだったのです。

この論理には原子炉の専門知識は一切必要ありません。大前研一さんは、東京工大原子力工学科で修士号をとっておられますが私はこの世界はまったくの「しろと」です。

ですが、根本原因の見解はほぼ同じです。いかがでしょうか。

この論理と原子力発電の是非論とはまったく関係がないことを念のため申し添えておきます。

なお、この論旨の基本部分は2011年6月の「福島原発の事故およびその被害拡大要因」で述べているものです。